

# 内子

## ものがたり

明治・大正期の日本洋画界で、中央画壇を上り詰め活躍した中川八郎（1877～1922年）は、旧天神村上宿間出身の洋画家です。生家跡近くの棒の端墓地に彼の墓碑があります。碑の正面には「中

川八郎墓」とあり、側背面にはすべて漢文で経歴が彫り込まれています。碑文は杉山令吉がまとめ、当時、中川と共に洋画壇で活躍していた中村不折が筆を執りました。「君諱八郎伊予国喜多郡天神村人

### 第三話 中川八郎墓碑

語り部 山田 清昭さん（柿原）

……と始まり、およそ次のように述べられています。

「猪三郎の子として生まれるも、幼少で両親を亡くし叔父に養われる。生来、絵を描くことに長けており、東京に出て小山正太郎に洋画を学び頭角を現す。その後、前後5年間の欧米留学で成果を上げ、文部省展覧会・帝国美術院展覧会の審査員に推され名を成す。それに自足せず欧州へ研修の旅に出るも、イタリヤで病にかかり急きよ帰途に就く。神戸入港後、病院で手当を受けるがそのかきもなく、大正11年8月3日病没した。享年46歳。八郎は温厚・寡言で名利にこだわらない性格であった。ひとたび筆を執ると、大自然の対象を見事に描写し、その傑作は何度も宮中に入るほどの腕前だった。命数永からずといえども、その芳名は千年にも及ぶであろう。大正12年8月 中村不折筆」

墓碑は80数年間雨風に耐え、地域のの人たちによって永年守られています。



1 天神小学校の校長室に展示されている作品「漁港風景」 2 中川八郎の肖像 3 上宿間地区棒の端にある墓碑 4 作品を前に説明する山田さん

### 編集辛記

表紙の写真 山並みの保全と活用を考える「せんの森プロジェクト」。6月7日、笠取山から大川嶺へと尾根を歩く山並みツアーが行われました。参加者は笹原が立ち、頭上の青空に手を伸ばして、全身で自然を味わっていました。

表紙で訪れた笠取山。標高1,562mと町内で一番高い山ですが、山頂付近まで車で行くことができ、気軽に登れます。見晴らし爽快で、すっかりフレッシュしてきました。最近、世間では「ゆるる登山」が流行しているとか。皆さんもいかがですか？（み）  
先月、サッカー日本代表が見事W杯出場一番乗りを決定！さらに、あるマンガの主人公が所属するバルセロナも欧州を制覇して来日予定。わたしのひいきチームの勝ち運が継続中です。サッカーくじを購入したら当たる予感が……。その前に宝くじを当てなくては…（光）

### 内子分庁

〒791-3392

内子町内子 1515 番地

電話 (0893) 44-2112 (代)

FAX (0893) 44-6135 (代)

### 小田支所

〒791-3592

内子町小田 81 番地

電話 (0892) 52-3111 (代)

FAX (0892) 52-2303 (代)

### 編集：広報うちこ編集委員会

広報うちこは環境にやさしい「大豆インク」を使用しています。